

J **apanese text**

2016年 秋/冬号 日本語編

Works

人

画・文＝篠田桃紅

p.009

この「人」は、いま、何かをしようとしているらしいが、
 その、何か、は、わからない。
 おそらく、永遠に、わからない。

口絵

京都、秋の色を巡る

写真＝橋本健次 (p.10～11、13～14)、片岡 巖 (p.15)
 文＝吉岡幸雄 (染織史家)

p.010

山々を染め、刻一刻と姿を変える美しい紅葉。古より人々はその姿を愛で、さまざまな思いを託してきました。京都の西、閑静な大原野エリアで歴史を刻む、美しい寺社を巡ります。

(p.011)

おおほらの じんじや
大原野神社

えんりやく かんむり
 延暦3(784)年、桓武天皇が長岡京遷都の際に、藤原氏の氏神である奈良の春日大社の神霊を遷し祀ったと伝わる。「参道のモミジは真っ赤に燃えるよう。奈良から京都への歴史の変遷を思わせる静かな佇まい」と吉岡幸雄氏。

京都市西京区大原野南春日町 1152

Tel. 075-331-0014

拝観時間：日中随時

拝観料：境内自由

見頃：11月下旬

p.012

秋色を映して

十代の中頃から、休みの日になるとよく古い社寺を訪ねて歩いていた。とりわけ勉強のために役立てるというわけではなく、あたりの風景と建造物や意匠を見ていたのである。

京都に生まれ育ったので、そうしたことに恵まれた環境にあったこともあり、先輩たちがするのをまねていたのである。親にせがんで『古寺社巡礼』のような文庫本を買ってもらって、それをめくって、行き先を決めるという具合である。

もう、50年ほど前の昭和30年代(1955～1964年)の中頃のことであるから、まだ今日のような多勢の人が来るといことはなくのんびりとしたものだった。

そのなかでも西山の大原野あたりは静かな鄙びた里で、その一帯の山道を歩いて、社寺を巡ってから、気に入って幾度か訪れている。

初めての時は秋がかなり深まっていた頃で、大原野神社の紅葉は散りかけて、本殿までの参道に両側から突き出して参道を赤く染めていたのが、今も眼にうかんでくる。

そこから、少し山のほうには花の寺(勝持寺)がある。仁王門をくぐって細道をよると、桜の葉が紅葉して、これもまた暖かみのある彩りである。「花」つまり桜が見事な寺であるが、秋もまた一趣である。

大原野神社から花の寺、そして背後にある小塩山へのぼっていくわけだが、なかでも金蔵寺に行くと、色の葉のかさなりが、眼にきざみこまれる。

金蔵寺は山の中腹に、斜面にへばりつくように建っている。大きな石を組んで平地を作り、そこに堂宇を築き、さらに石垣で囲むという、いかにも山寺に來たという思いがする。長い石段をのぼると、また15段ばかりの石段があって、そこに黄や赤の紅葉した葉が混ざりあうように舞って、地を隠すようにつもっていく。

吹く風の 色のちぐさに 見えつるは

秋の木の葉の 散ればなりけり

——読み人知らず『古今和歌集』巻五

という歌の情景である。

伽藍があるところから、少し北にある細道を行くと、真下には先に歩いた大原野の里が見え、遠くには、京の洛中が一望できる。東山三十六峰から遠く比叡山まで見わたせる。

私が染屋家業を継ぐまでは何気なくこうした京の情景を見ては美しい、きれいだと感心するだけに終わっていたが、植物から汲み出してきた彩りを、布帛に染めて美しい衣装とする。それに日本の季の色を眼に映しながら試みていくようになって、訪れるその地のありようを糸一本、布一枚にしみ込ませていくものだと思えるようになった。

やがて、寒さが日ごとにすすんで、露や霜がおりて、水にぬれた黄紅の色はより美しくなっていく。

霜のたて 露のぬきこそ 弱からし

山の錦の おればかつ散る

——藤原関雄『古今和歌集』巻五

という一首のとおりである。秋の緩やかな彩りは、王朝の歌人も変わらぬ思いでいて、まるでそれを映したかのような襲の意匠を着て、ゆく秋を楽しんでいたのであろう。

吉岡幸雄 (よしおか・さちお)

1946年京都市生まれ。染織史家。早稲田大学卒業後、美術図書出版「紫紅社」を設立。1988年、生家「染司よしおか」五代目当主を継ぎ、日本の伝統色の再現に取り組む。2009年京都府文化賞功労賞、2010年菊池寛賞受賞。『日本の色辞典』『色の歴史手帖』『日本の色の十二月』ほか著書多数。

(p.013)

金蔵寺

養老2(718)年、元正天皇の勅願で建立されたと伝わる天台宗の古刹。「小塩山の中腹に建つ金蔵寺からの眺めは素晴らしく、眼下に広がる風景はまさに『洛中洛外図』を見ているよう」。

京都市西京区大原野石作町1639

Tel. 075-331-0023

拝観時間：8:00～17:00

拝観料：志納

見頃：11月中旬

勝持寺・花の寺

白鳳8(679)年、天武天皇の勅によって創建したのが始まり。境内には約100本の桜と、同じ数ほどのモミジが自生している。「桜の歌を多く詠んだ西行法師ゆかりの寺として知られ、境内には自らが植えたといわれる西行桜がある」。

京都市西京区大原野南春日町1194

Tel. 075-331-0601

拝観時間：9:00～17:00

拝観料：400円

見頃：11月中旬

善峯寺

長元2(1029)年、源算上人が自作の十一面千手観音菩薩を祀ったのが始まり。「樹齢600年を超える遊龍の松も有名だが、奥の院からの眺めはまるで赤、黄、緑の糸で織り上げた錦のように美しい」。

京都市西京区大原野小塩町 1372

Tel. 075-331-0020

拝観時間：8:00～17:00

拝観料：500円

見頃：11月中旬